「自然学：SHIZENGAKU -来るべき美学のために-」　出品作家資料

石川 亮　いしかわ・りょう　http://ryoishikawa.jp/
1971年大阪府生まれ。1995年京都精華大学美術学部造形学科卒業。現在,成安造形大学非常勤講師 兼 附属近江学研究所研究員。
交通インフラやそのシステムの興味から作品制作を始める。宗教観と自然観を生活の中に取り込み、自然と対峙しながらも共存してきた日本人の感覚に注目している。

宇野君平　うの・くんぺい
1974年愛知県生まれ。1998年成安造形大学造形美術科立体造形クラス卒業。2001年筑波大学大学院芸術研究科デザイン専攻総合造形コース修士課程修了。現在,成安造形大学講師。
「鉄」との出会いから、彫刻家として制作を展開。「鉄を通して見えてくるもの」をキーワードに美術家として活動している。

岡田修二　おかだ・しゅうじ　http://shuji-okada.com/
1959年香川県高松市生まれ。1987年愛知県立芸術大学大学院美術研究科絵画油画専攻修了。2007年京都市立芸術大学大学院美術研究科博士（後期）課程油画領域修了。現在,成安造形大学教授。
このグローバルな地球環境の時代における今日的自然美学の実践として、日本文化の精神性の特質を新たなかたちで表現することに取り組んでいる。

木藤純子　きどう・じゅんこ
1976年富山県生まれ。1999年成安造形大学造形学部造形美術科洋画クラス卒業。2000年成安造形大学造形学部造形美術科洋画クラス研究生修了。
身体を通した空間との対話を繰り返しながら、その場所性を読み解いていくというプロセスのもと構想されたインスタレーション作品を発表。

ジョン・レヴァック・ドリヴァー　John Levack Drever
スコットランド出身。バンゴー大学卒業、イーストアングリア大学修士、ダーティントン芸術大学博士課程修了。現在ロンドン大学ゴールドスミスカレッジ音楽学部上級講師、同大学サウンド・プラクティス研究所所長。英連邦・アイルランドサウンドスケープ協会評議員、香港市立大学客員教授（2007年）。王立地理学会、王立芸術協会会員。
琵琶湖畔の環境とそれに纏わる伝説、岡田氏のキャンバスから受けた印象を湖周辺で取材した音、楽器・琵琶の音色をブレンドしたサウンドスケープによって表現する。

Softpad　ソフトパッド　http://www.softpad.org/
1999年結成。京都を中心に活動するアート/デザインユニット。
現在のクリエイション・メンバーは粟津一郎、上芝智裕、奥村輝康、竹内創、外山央、泊博雅、南琢也。

西久松吉雄　にしひさまつ・よしお
1952年京都府生まれ。1979年京都市立芸術大学美術専攻科日本画専攻修了。現在,創画会会員・成安造形大学教授。：日本の歴史に思いを馳せて、日本の文化と風土を意識しながら精神性を更に深めた古墳や社のある風景、巨樹や奇岩群などの作品を描き続けている。

馬場晋作　ばば・しんさく
1978年京都府生まれ。2001年成安造形大学造形美術科卒業。2011年京都市立芸術大学大学院美術研究科博士（後期）課程修了。現在,成安造形大学非常勤講師。
絵画の方法論を解体し、再構成するプロセスによって作品を展開する。主題の一つに視覚と制度の関係を巡ることがある。

真下武久　ましも・たけひさ
1979年東京都生まれ。2003年成安造形大学造形学部デザイン科卒業。2005年岐阜県立情報科学芸術大学院大学メディア表現研究科修了。現在,成安造形大学講師。
インタラクティブアートを中心に研究、作品制作を行う。

「自然学」プロジェクト・コアメンバー　プロフィール

岡田修二　[プロジェクトリーダー・出品作家]

（出品作家資料をご参照ください）

山本和人　やまもと・かずと

成安造形大学准教授（宗教学、哲学）。1960年生まれ。京都大学大学院文学研究科博士課程後期満期退学。主要論文「知覚に於る経験と抽象—ホワイトヘッドの知覚論の意味」「千年王国運動と歴史—バリッジとエリアーデの研究を中心に—」「現代に於る〈宗教〉の変容」「メディアの中の妖精—コティングリ妖精事件を読む」。

要真理子　かなめ・まりこ

大阪大学招へい准教授、成安造形大学非常勤講師（美学・芸術学）。大阪大学大学院文学研究科博士後期課程芸術学専攻修了。博士（文学）。専門は美学・芸術学、美術批評。主な著作に『ロジャー・フライの批評理論——知性と感受性の間で』（東信堂、2005年）、共編著に『イメージ（上）　イメージとは何か』（ナカニシヤ出版、2011年）、『イメージ（下）、イメージと私たち』（ナカニシヤ出版、2012年）など。

ジョン・レヴァック・ドリヴァー　［出品作家］

（出品作家資料をご参照ください）

アンソニー・プライアー　Anthony Pryer

美学・音楽学者。ロンドン大学ゴールドスミスカレッジ卒業、キングスカレッジ修士課程修了、同大学博士課程単位取得退学。中世史研究者として発表した修士論文でHilda Margaret Watts賞受賞。キングスカレッジ、王立音楽院講師を経て現在ゴールドスミスカレッジ音楽学部修士課程歴史的音楽学科ディレクター。美学者としてのほか、モンテヴェルディ、モーツアルトの研究者としても名高い。BBC Classical Music Awards審査員、the Accademia Monteverdiana評議員、the British Society of Aesthetics（英国美学学会）理事(2001〜2007年)。

松本直美　まつもと・なおみ　（『自然学』プロジェクトコーディネーター）

音楽歴史学者。愛知県立芸術大学音楽学部声楽専攻卒業。1997年トリニティ音楽大学大学院声楽専攻修了。1999年ロンドン大学ゴールドスミスカレッジ大学院修士課程音楽学専攻を首席修了。2005年同大学より博士号授与。特に17世紀・19世紀イタリアオペラの分野で研究活動を展開し、British Federation of Women Graduate National Award, Gladys Krieble Delmas Foundation British and Common Wealth Awardなどを受賞。共著にBeyond Notes: Improvisation in Western Music of the 18th and 19th Centuries (Brepols出版、2012)など。現在、ロンドン大学ゴールドスミスカレッジ音楽学部アソシエイト講師、Society for Seventeenth Century Music (USA)、日本音楽学会会員。

関連イベントゲスト　プロフィール

木村至宏　きむら・よしひろ

1935年滋賀県生まれ。大谷大学大学院文学研究科中退。日本文化史専攻。大津市史編纂室室長を経て、大津市歴史博物館初代館長。成安造形・京都橘女子（現京都橘）・大谷・放送の各大学非常勤講師、1996年成安造形大学教授、2000年同大学学長に就任。2008年成安造形大学附属近江学研究所初代所長を併任。2009年成安造形大学附属近江学研究所所長・同大学名誉教授。

小谷昌代　こたに・まさよ

京都市生まれ。京都府神社庁楽琵琶奏者進藤秀保氏や平家琵琶奏者荒尾努氏に師事しながら平安初期に存在した楽琵琶の独奏法を研究。2008年から、「弦楽奉納演奏会」や清水焼団地「陶器まつり」など山科各地のイベントをプロデュースし、琵琶の演奏を行う。イベントを通じて盲目の親王であり琵琶法師の祖と慕われた人康親王（さねやすしんのう）ゆかりの四ノ宮琵琶の普及に務める。現在、藤森神社鳴鳳雅楽会会員。

福家俊彦　ふけ・としひこ

1959 年滋賀県生まれ。立命館大学大学院文学研究科修士課程修了。西洋哲学専攻。三井寺の歴史を中心に仏教文化史、建築生産史を研究。現在、天台寺門宗教学部長。おもな著書は、史料集『園城寺文書』全七巻（共著・講談社）、『いのちの食味—三井寺のおそうざい精進料理』（共著・戎光祥出版）他多数。

千速敏男　ちはや・としお

成安造形大学教授（西洋美術史）。成城大学大学院文学研究科博士課程後期満期退学。美術理論史を研究。主要論文:「Über die Bedeutung des Wortes, ‘schilderachtich’, in der niederländischen Kunstliteratur des 17. Jahrhunderts」『AESTHETICS』第6号（1994年）、「ウィレム・フーレーの“teyckenachtigh”について」『伝統と象徴:美術史のマトリックス』（沖積舎，2003年）、「レンブラントの《夜警》はピクチャレスクか:サミュエル・ファン・ホーフストラーテンの“schilderachtich van gedachten”をめぐって」『美學美術史論集』第19輯（2011年）。

稲賀繁美　いなが・しげみ

国際日本文化研究センター教授（比較文化・比較交渉史）。1957年生まれ、東京大学教養学部教養学科卒。同大学院比較文学比較文化専攻単位取得退学、パリ第7大学博士。三重大学助教授を経て、現在国際日本文化研究センター教授。異文化接触の気象学、文化変動の地形学。
著書に『絵画の黄昏』『絵画の東方』、編著に『伝統工藝再考:京のうちそと』『東洋意識』ほか。

廣瀬 浩司　ひろせ・こうじ

筑波大学准教授（哲学）。1963年生まれ。東京大学大学院総合文化研究科博士課程中途退学。パリ第一大学博士（哲学）。現在、筑波大学人社系准教授。専門はメルロ=ポンティを中心にした、フランス思想・現象学。おもな著書に『デリダ—きたるべき痕跡の記憶』（白水社）『後期フーコー』（青土社）、訳書にジャック・デリダ「死を与える」（共訳、ちくま学芸文庫）、ミシェル・フーコー『主体の解釈学』（共訳、筑摩書房）などがある。

三脇 康生　みわき・やすお

仁愛大学大学院教授（精神医学・美術批評）。京都大学文学部美学美術史卒業後、同大学医学部卒。京都大学医学研究科博士課程卒（医学博士）精神科医。９０年代終わりフランス政府給費留学生としてパリ第一大学では、精神医学と現代思想や生命論、自然論を研究した。美術批評家としては医学部在学中から活動している。

松嶋 健　まつしま・たけし

京都大学人文科学研究所研究員（人類学）。文化人類学者。近年は精神科病院を全廃したイタリアの地域精神保健について研究している。病いの経験を、より広く「生きる」という文脈から捉え直すことで、精神環境・社会環境・自然環境のすべてにわたるエコロジーの問題として探究をすすめている。イタリアでは精神障害を持った人々と共に演劇ラボラトリーを行っていたが、このことと関連して、特にアートについてはその生態学的な身体的行為の次元に関心を抱いている。